皇太子廃立事件（承和の変）と、道真の配流事件をたくみに重ね合わせようとしていたことを示している。（中略）京から摂津までは左降の勅使として左衛門佐（近衛隊長）藤原真興が近衛十人を率いて馬で追走した。」

（『消された政治家　菅原道真』文春新書）

そして昌泰四年（九〇一）二月一日、『日本紀略』には「今日、権帥（道真）向任」の記事が見える。その時の事は、道真は自身の言葉で、『菅家後集』「477　詠楽天北窓三友詩」中で「自従勅使駈将去、父子一時五処離」と詠み、同じく、「483　慰少男女」中で「衆姉惣家留、諸兄多謫去」と詠んでいる。これは、道真の左遷決定に連座して、息子達四人、大学頭であった「菅原高視」が土佐介に、「菅原景行」が式部大丞から駿河権介に、又「菅原兼茂」が左衛門尉から飛騨権椽に、「菅原淳茂」が文章得業生から播磨に左降されたことを指す。

7○愧赧　…「愧」も「赧」も恥じて赤面すること。

○顔厚　…恥じて赤面を重ねるうちに、鉄面皮になってしまう。

『漢語大詞典』には「臉皮厚。謂不知差耻」と説明し、『書経』「五子之歌」の「鬱陶乎予心、顔厚有忸怩。（孔傳）顔厚、色愧」の用例を引く。

8○章狂　…あわて狂うこと。

『漢語大詞典』では「倉皇（＝慌てふためく）。慌張」と説明し、蘇軾の「謝量移汝州表」の「隻影自憐命寄江湖之上、驚魂未定、夢游縲紲之中、憔悴非人、章狂失志」の用例を引く。

○踵不旋…「不暇旋踵」の略。踵をめぐらす間もないということで、時を移さないこと。「不得旋踵」。

『漢書』「京房傳」に「不量傅淺深、危言刺譏、構怨強臣、罪古辛不旋踵」の用例が見える。